

【出題内容】

<早稲田大・教育(文・理) 傾向と対策> 全問マーク。長文4+会話1。テーマは文理混在。丁寧な消去法で高得点を!

□ 2008~2016 まで傾向変化ほぼなし:①長文 ②長文 ③長文 ④長文 ⑤会話 <50問・全問マーク>

	2016	2015	2014	2013	2012	2011	2010 ④会話	2009 ④会話	2008 ④会話
パラグラフ内容選択	②1④5		①1③1	①222 ③1④5			⑤1		
内容真偽(全体要旨含む)	①1②1④3 ⑤1	①1③1④1 ⑤2	①1②1③2 ④2⑤1	①4②2④1 ⑤6	①1②2③1 ④1⑤1	①5③1④1 ⑤4	①22②31 ⑤5	①1②1③1 ④2⑤1	①10②2 ③1
空所補充問題	①2②1③2 ⑤9	①5②9③1 ④7⑤4	②7③4④4 ⑤4	②2③2④3 ⑤4	①4②2③6 ④1⑤7	①2②5③9 ④4	②6④6	①2②2③8 ④2⑤5	②2③3 ④5⑤10
本文中の下線部についての設問 同意文・同意語句・指示内容等	①7②5③8 ④2	①3②1③8 ④2⑤3	①7②2③3 ④4⑤4	①4②4③7	①5②5③2 ④7	①3②5④5 ⑤5	①4②1③3	①6②6④4 ⑤4	②6③5④1
整序問題	②1		⑤1	④1	②1⑤2		④2		③1④3
音声(発音・アクセント)		①1⑤1	①1			⑤1	②1	①1②1④2	
タイトル選択問題					③1④1		③1	③1	
文整序							①2		④1
表完成							③4		

会話1題+長文4題(90分)。問題形式は空所補充と内容に関するものが中心。ただ、他学部と違って *but* の用法を単純に聞くような典型的な文法・語法問題、文強勢などの音声問題も出題されることがある。ただ、長文は400~600語程度で全体でも約2000語程度。アカデミックで深く突っ込んだ内

容というよりは、文系・理系のどちらの学生にも読みやすい英文が多い。ただ、語彙は多少難しいものもある。文整序の問題(早稲田・政経タイプ)は最近出題されていないが、一応対策はしておくべき。

早稲田・教育学部の問題で注意しなければならないのは、「誤りのあるだけ選べ」「いずれの空所にも入らないものを選べ」「本文と合致しないものを選べ」といったいわゆる否定型の設問。ただの「意地悪」でしかない気もするが、単純な消去法が通用しない場合もあるので注意。ただ、合格ラインは(学科によってかなり幅があるが)それほど高くないので、35問取れば十分合格圏内に入ることが出来るだろう。

他学部・他大学の問題との相関

早稲田・教育オリジナルといった問題はないし、早慶上で見られるやっかいな問題も少ない。GMARCHレベルの問題と一番差がない(模擬試験などで出題される基礎・標準レベルの問題が中心)のが早稲田・教育なのでGMARCH志望の人でも基礎がしっかりしていれば、早稲田・教育の英語は怖くない。教育学部とは言え、卒業生の進路は教員以外の多岐に渡る(教職取るのが5~6割・教員になるのは25%程度)ので、教育系以外の生徒も受験を検討してみるとよいでしょう。

- ① 難問を意識するより、基礎～標準の問題を徹底すること。それだけで合格ラインは超える！
- ② 受験生平均は非公表。学科によって合格者最低点は異なる。英語英文科は英語が1.5倍。
<合格最低点> 2012: 56.3～63.7% 2013: 57.7～63.7% 2014: 56.3%～63.7%
- ③ 受験生レベルは早稲田の中でも低い方。難問が少なく、基礎～標準レベルの素直な問題が多いので「模擬試験学力」がそのまま反映されやすいタイプの問題(もちろん対策は必要だが)。
- ④ 速読力など不要。ただし、語彙に関する問題は多いので(下線部型)、語彙を充実させる！
- ⑤ 早稲田は3教科バランスが勝負！英語だけ得意では勝負出来ない！
- ⑥ 英語が得意なら最低でも7割以上(9割近い高得点も可能)、苦手でも6割前後は欲しい。